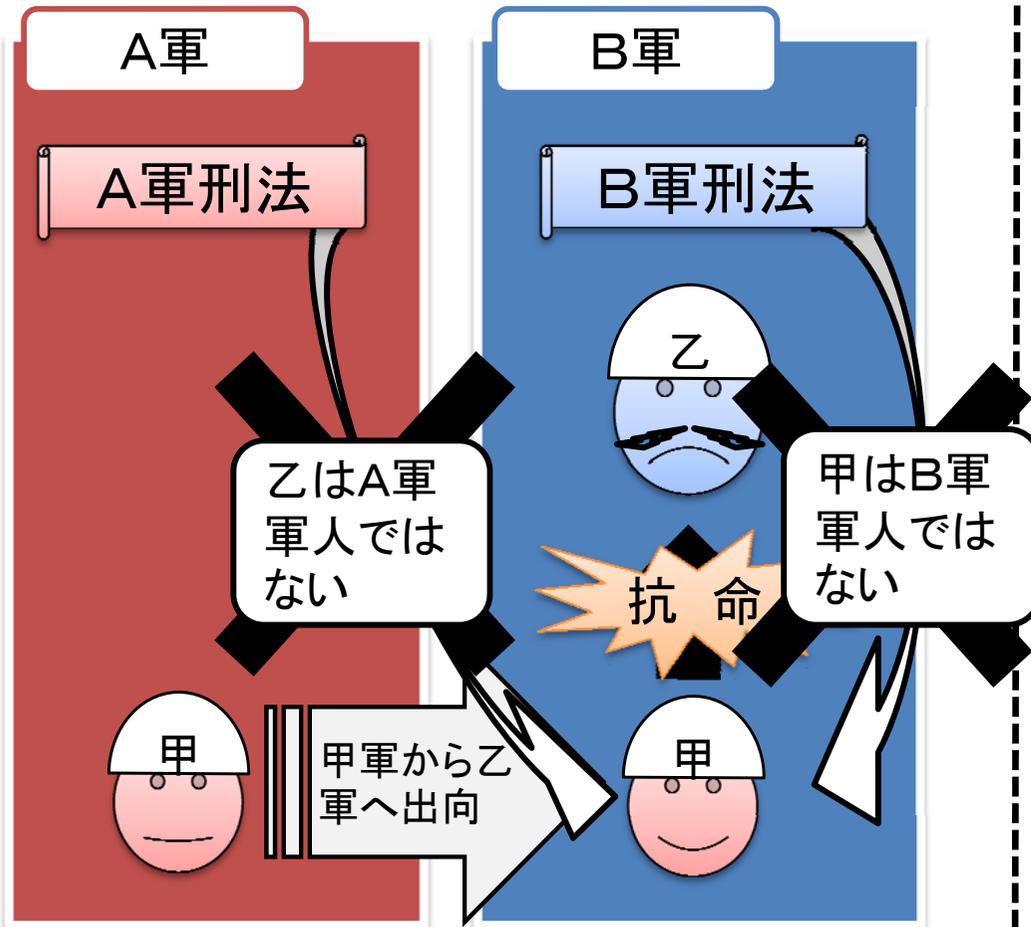


陸海軍刑法ノ適用ニ関スル法律(明治28年法律第27号)の適用例

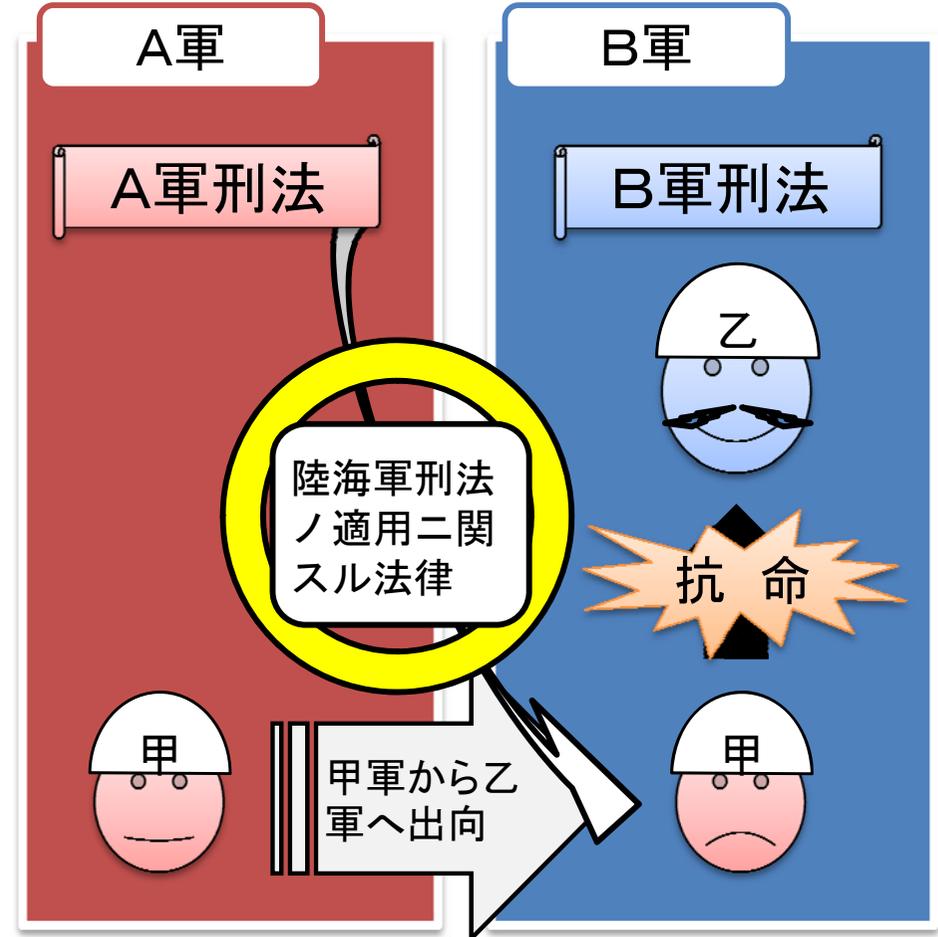
1. A軍軍人甲がB軍の軍務を遂行中にB軍上司乙に反抗した場合、甲はB軍刑法の公明罪に問われるか。

本法の制定前



A軍刑法、B軍刑法共に抗命罪の構成要件に該当しないため、罪に問われない。

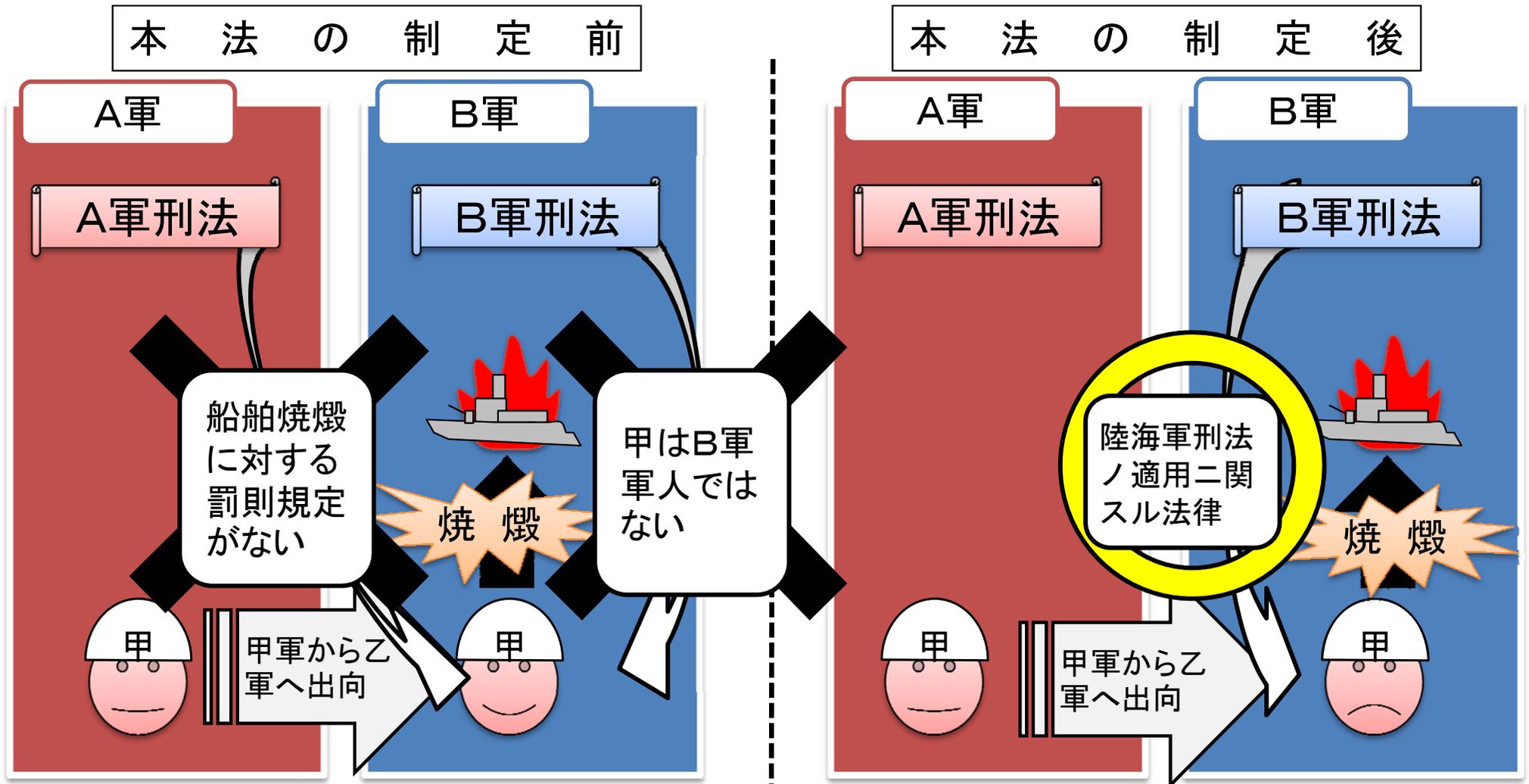
本法の制定後



A軍刑法、B軍刑法共に抗命罪が規定されているため、第2条によりA軍刑法が適用される。

陸海軍刑法ノ適用ニ関スル法律(明治28年法律第27号)の適用例

2. A軍軍人甲がB軍の軍務を遂行中にB軍の船舶を焼燬した場合、甲はB軍刑法の船舶焼燬罪に問われるか。



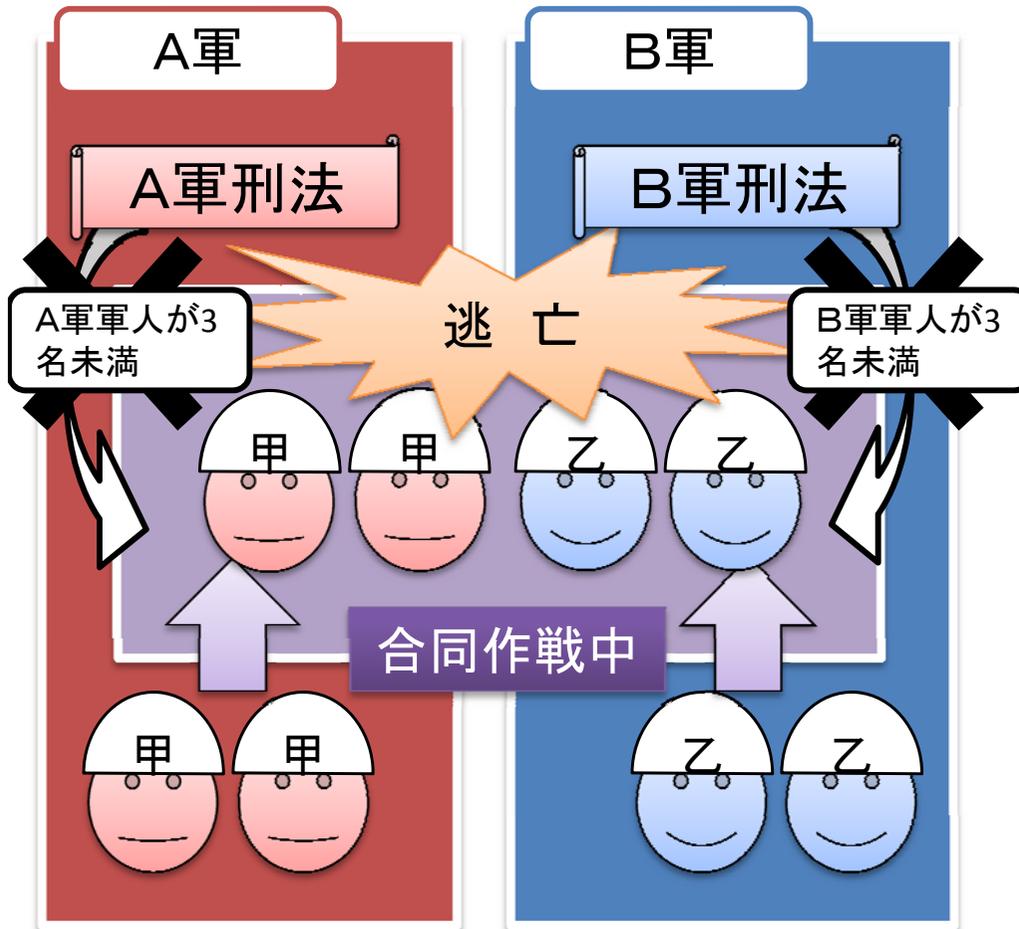
A軍刑法、B軍刑法共に船舶焼燬罪の構成要件に該当しないため、罪に問われない。

B軍刑法のみに罰則が規定されているため、第1条によりB軍刑法が適用される。

陸海軍刑法ノ適用ニ関スル法律(明治28年法律第27号)の適用例

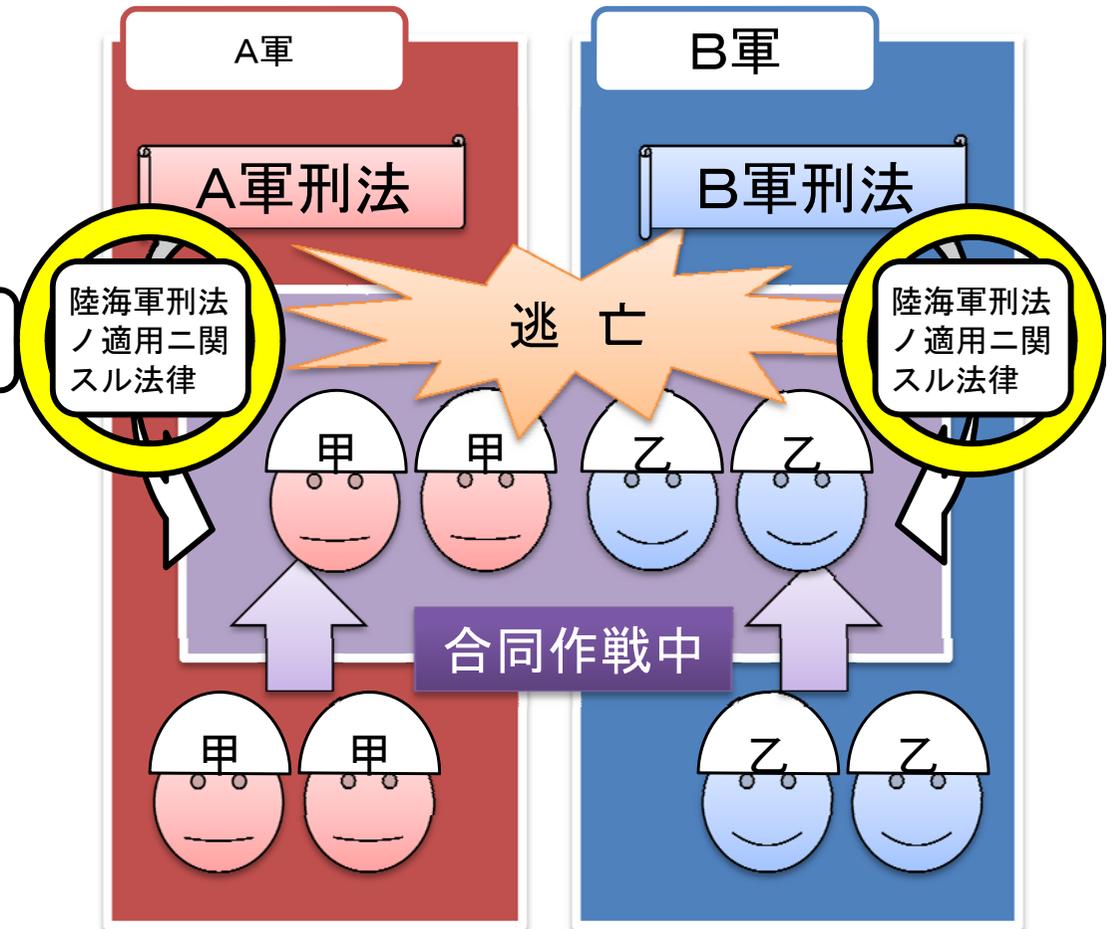
3. A軍軍人2名(甲組)及びB軍軍人2名(乙組)が合同して軍務の遂行中に徒党を組んで敵前逃亡を行った場合、甲組及び乙組は敵前逃亡罪に問われるか。

本法の制定前



A軍刑法、B軍刑法共に徒党逃亡罪の構成要件に該当しないため、罪に問われない。

本法の制定後



A軍刑法、B軍刑法共に徒党逃亡罪が規定されているため、第2条により甲組はA軍刑法、乙組はB軍刑法が適用される。